

3. 9ヶ月累計の経営成績、財務諸表等

	9ヶ月累計	前年同期比(増減率)
売上高	32,101 億円	421 億円 (1.3%)
営業利益	▲ 78 億円	286 億円
経常利益	▲ 843 億円	103 億円
税金等調整前当期純利益	205 億円	2,756 億円
当期純利益	▲ 509 億円	1,214 億円

<全般の概況>

第1四半期から第3四半期までの累計の売上高は3兆2,101億円となり、前年同期比1.3%の増収となりました。ソフトウェア・サービスは0.6%とほぼ前年並で、プラットフォームはHDDは好調でしたが、サーバ、ストレージが新製品へのモデルチェンジのため上期の売上が伸び悩み、全体では2.2%減少しました。電子デバイスはデジタルAV機器向けLSIやPDPなどが好調で18.0%と大幅な増収となりました。中間期末でリース事業が連結対象外となったため、金融セグメントの売上高が減少しました。

営業利益は78億円の損失ですが、前年同期比では286億円の改善となりました。電子デバイスの増収に伴う利益とプラットフォームを中心に価格低下に対応した各種製品のコストダウン、営業費用の効率化が損益改善の主な要因です。

経常利益は843億円の大きな損失で、前年同期比で103億円の改善です。退職給付積立不足償却額の負担や持分法利益のマイナス、為替差損の増加が損失の要因となっています。

特別損益としては、ファナック社株式の売却などにより投資有価証券売却益1,254億円を特別利益に計上しました。特別損失としては岩手工場の地震による災害損失や子会社における事業構造改善費用などを計上しております。前年度は事業構造改善費用などの負担が巨額でしたが、今期は僅少に止まっております。

この結果、税金等調整前当期純利益は205億円でしたが、ファナック社株式の売却益に対する税金が単独ベースで計算されるため、税金負担が重くなり、当期純利益は509億円の損失となりました(前年同期比で1,214億円の改善)。

ファナック社株式売却の影響は添付の参考資料をご覧ください。

<セグメント別の営業利益の状況>

	9ヶ月累計	前年同期比
ソフトウェア・サービス	365 億円	▲ 315 億円
プラットフォーム	▲ 206 億円	239 億円
電子デバイス	143 億円	429 億円

第1四半期から第3四半期までにおけるソフトウェア・サービスの営業利益は365億円となりましたが、前年同期比では315億円の悪化となりました。価格競争の激化やプロジェクトの採算悪化によるものです。

プラットフォームの営業利益は206億円の損失ですが、前年同期比では239億円の改善となりました。国内外の生産拠点での事業構造改革の効果が現れ、価格低下に対応したコストダウンが進んだことにより確実に損益が改善してきました。

電子デバイスの営業利益は143億円で、前年同期の286億円の損失から益転し、429億円の大改善となりました。事業構造改革の効果とコストダウンによる損益改善に加えて、デジタルAV機器向けLSIやPDPの需要拡大により大幅に損益が改善されました。